

川本喜八郎生誕100年特別展

川本喜八郎が影響を受けた 人形アニメーション作家

前期

持永只仁とイジイ・トルンカの人形アニメーション
2025年4月26日(土)～6月7日(土)

後期

イジイ・トルンカ作品展
6月8日(日)～8月31日(日)



日本とチェコで人形アニメーションの礎を築いた持永只仁とイジイ・トルンカ両氏のアニメーション人形をはじめ、制作にまつわる絵コンテや絵本の挿絵などから、川本喜八郎が受けた影響と両氏とのつながりに迫ります

持永只仁(1919-1999)

東京都出身。幼少期を満州と佐賀で過ごす。ディズニーの短編映画「シリー・シンフォニー」シリーズを観てアニメーションに傾倒。1939年芸術映画社入社後、瀬尾光世のもとセルアニメーションを修行。1945年満州で終戦を迎えると、内戦の中国で自身初の人形アニメーションを制作。帰国後、日本初の人形アニメーション映画「瓜子姫とあまのじゃく」を制作。日本・中国の人形アニメーションの礎を築いた。

イジイ・トルンカ(1912-1969)

チェコ、ブルゼニ出身。プラハ工芸大学に進学後、グラフィックやリトグラフ、本の装丁などを学び、新聞や絵本の挿絵を描く。第二次大戦終戦後、国立映画製作所の仕事を依頼され、映画を手掛けるようになる。ブジェチスラフ・ボヤルら若手クリエイターと実現した自身初の長編人形アニメーション「チェコの四季」を皮切りに、多くの人形アニメーション作品を制作。数多くの国際映画祭で受賞し高く評価されている。

© 持永只仁アニメーション研究会

© Archiv B&M Chochola

川本 喜八郎(1925～2010)

東京都出身。人形美術家・人形アニメーション作家。

1953年に持永只仁に師事し、人形アニメーションの基礎を学ぶ。持永監督による日本で初めて制作された人形アニメーション「ほろにが君」(テレビCM)で人形を制作。その後も持永作品『ちびくろさんぼのとらたいじ』『ふしぎな太鼓』などの人形美術を担当する。

1963年にチェコに渡り、イジイ・トルンカに師事。能、狂言、歌舞伎などの古典芸能を活かした日本の物語を作るよう助言を受ける。帰国後、その教えを基に人形アニメーション『花折り』『道成寺』などを制作し、数々の賞を受賞。NHKで放送された人形劇『三国志』(1982-84)や人形歴史スペクタクル『平家物語』(1993-95)の人形美術を担当し、世代を超えて今なお多くのファンを魅了し続けている。

飯田市 川本喜八郎 人形美術館

IIDA CITY KAWAMOTO KIHACHIRO PUPPET MUSEUM

長野県飯田市本町1丁目2番地 ☎0265-23-3594 <https://kawamoto-iida.com>

●開館時間/9:30～18:30(入館は18:00まで) ●休館日/水曜日(祝日は開館)、年末年始

●入館料:一般/400円、小中高生/200円 ※いいだ人形劇フェスタ2024のワッペンを提示で小中高生は入館無料

